

A 級 ・ B 級 ス テ ッ プ ア ッ プ 研 修 会
参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	大阪学生バスケットボール選手権大会		
●日程	2019年5月18日 (土) ~		2019年5月19日 (日)
●会場	大阪商業大学体育館、関西大学東体育館		
●講師	飯尾 勝紀 様 黒岡 和哲 様		
●スケジュール	5月18日 (土)		
	10:00 開講式 10:10 ルールテスト 11:00 実技開始 20:30 夕食懇親会 22:00 終了		
	5月19日 (日) ~		
	9:30 実技開始 14:30 閉講式		
●担当試合①	5月18日 (土) 12:30 ~		
	対戦カード	大阪商業大学 VS 大阪大学外国語学部	
	クルーチーフ	1stU 清瀬 美喜	2ndU 廣瀬 俊之
	インストラクター	飯尾 勝紀 様	
	講評	判定基準の3人での一貫性に課題。 クルーチーフメンタリティはある程度発揮できた。	
	自己の感想	経験年数等の違う審判3人の判定基準を合わせる工夫が必要。 能力差のある2チームの対戦だったため、 質の悪いプレーに毅然とした対応が求められる。	
●担当試合②	5月19日 (日) 12:30 ~		
	対戦カード	大阪体育大学B VS 四天王寺大学	
	クルーチーフ	1stU 田中 孝史	2ndU 木村 桃子
	インストラクター	黒岡 和哲 様	
	講評	プライマリエリア・プライマリアングルの再確認。 ビッグインパクトへの対応をしっかり。	
	自己の感想	能力差のあるゲームだったので、 ブロックチャージでのビッグインパクトを逃してしまったことが際立つ。	

令和元年 第2回ステップアップ講習会
参加報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第37回大阪学生バスケットボール選手権大会						
●日程	令和元年5月18日			～	令和元年5月19日		
●会場	大阪商業大学・関西大学						
●講師	湯浅剛氏 黒岡和哲氏 飯尾勝紀氏 村田尚美氏						
●スケジュール	令和元年5月18日						
	10:00 集合・開講式						
	10:00 ルールテスト						
	11:00 実技講習開始						
	17:30 ホテルに移動						
	18:30 座学研修						
	20:30 懇親会						
	令和元年5月19日						
	7:00各自ホテルにて朝食						
	8:30ホテル出発（各自で出発時間設定）						
●担当試合	5月18日(土) 14:00 ～						
	対戦カード		大阪成蹊大学		VS		大阪教育大学
	審判		CC	堂國氏	U1	森	U2 池嶋氏
	講師/主任		黒岡氏				
	講評		走るべき所での走りをもっと意識すること。トレイルがボールレベル まで下 がれていないことが多く、その為、ボールマンとストレートラインになって しまい、確認ができないポジションになる事が多い。レフェリータイムを取った時の状況を確認する事。				
	自己の感想		ベーシックな動きを基本としてコート上で動いていたが、そのベーシックな 動きは何の為にあるのかをもっと自分の中に落とし込む必要が あると感じ た。ベーシックな動きは何を見る為にその動きになっ てるのかを考え、コ ート上で自分はどのプレイを見たいのかを考え表現 するようにしたいと思 う。				
	5月19日(日) 11:00 ～						
	対戦カード		摂南大学		V S		関西外国語大学
	審判		CC	石川氏	U1	西田氏	U2 森
	講師／主任		飯尾氏				
	講評		3or2は確認出来たら、常に示すように心がける。また、3or2が確認できるアングルを取れるようにする。プレーヤーとストレートラインにならないように気をつける。C toCでいい動きが出来ている時もあるが、1 試合通してその動きが出来ているわけではないので、常にC toCの時に早く走ることを心がける。				
	自己の感想		この2日間、映像を使用しながらメカニクスの確認から、判定の確認などを行う事ができ、とても勉強になる2日間でした。映像を見て試合を振り返ることで、次の日、すぐに修正して審判を行う事ができた。夜の講習会では、スケジュール管理について講習していただき、改めて、審判と向き合う為にも自分の周りの環境を審判ができるようにすることもとても大切なことだと改めて感じました。ここからが、再スタート、明日やるうではなく、今からやるうという気持ちを忘れずに自分を変えてトライしていきたいと思 います。				

第 2 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 講 習 会

参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第37回 大阪学生バスケットボール選手権大会		
●日程	令和元年5月18日 (土) ~ 令和元年5月19日 (日)		
●会場	大阪商業大学、関西大学		
●講師	湯浅 剛 様 、原 一正 様 、黒岡 和哲 様 、飯尾 勝紀 様 村田 尚美 様		
●スケジュール	令和元年5月18日 (土)		
	10:00 集合・開講式 10:10 ルールテスト 11:00 実技講習開始 17:30 ホテル移動 18:30 座学研修		
	令和元年5月19日 (日)		
	9:30 実技講習開始 14:30 閉講式		
●担当試合	令和元年5月19日 (日) 11:00 ~		
	対戦カード	関西大学A VS 大阪工業大学	
	主審	主審 北村 仁	副審 平出 圭佑、重松 志保
	講師／主任	村田 尚美 様	
	講評	アイコンタクトがしっかり取れるなどクルーワークがしっかりできていてよかった。CCからの発信・声掛けでクルー間でコミュニケーションが取れていたが、次に自分がCCになったときにどのように発信・声掛けをしていくかということは考えていってほしい。たとえCCでなくとも、CCメンタリティーとして同様である。CenterのポジションがLow centerで居続けていることがある。工夫やポジションアジャストとしてLow centerはあるが、そのリスクもある。ポジショニングの意図を明確にしておくことはとても大切。	
	自己の感想	CCのクルーへの声掛けやSecondaryとしての準備などとてもいい見本を見せて下さり、とても学びが大きかった。たとえU1、U2だったとしてもCCメンタリティーを発揮してクルーと協力していけるよう意識していきたいと思う。前回の課題であったClock-controlもゲームの始まりから終わりまでクルーとして対応しながらできたように思う。Centerのポジションを指摘していただいたが、ベーシックが何のためにあるのかというところをもう一度考えていきたい。今回の研修での学びを踏まえて、次の担当に向けて準備してまいります。	

2019 年 度 第 2 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 講 習 会 参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第37回大阪学生バスケットボール選手権大会					
●日程	令和元年 5月18日(土)					
●会場	大阪商業大学					
●講師	湯浅様、黒岡様、飯尾様					
●スケジュール	令和元年 5月18日(土) 10:00 集合・開講式 10:10 ルールテスト 11:00 実技講習開始 17:30 ホテル移動 18:30 座学研修 20:30 懇親会					
●担当試合	令和元年 5月18日(土) 12:30 ~					
	対戦カード	大阪商業大学		VS	大阪大学外国語学部	
	CC	開	康寿氏	U1	清瀬 未喜氏	U2 廣瀬 俊之
	講師／主任	飯尾様				
	講評	・ローテーションの際、ローテーションが完了してからステイする。後ずさりしない。 ・センターの際、リードがアウトオブバウンズのシグナルを出しているのにセンターでシグナルを出さない。リードがヘルプを求めてきた場合は笛を鳴らしてからシグナルを出すべきである。 ・フリースローのトレイルの位置にいる際、しっかりステイする。動いていると落ち着きがなく、自信がないように見える。 ・ハードファウルがあった際、アンスポーツマンライクファウルの要素があるか確認するため、コールしたレフェリーのところに寄っていったのはよかった。 ・バイオレーションの後のスローインの位置が間違っている場面があった。ルール通りの位置からスローインさせるべきである。				
	自己の感想	・ローテーションを積極的にすることを意識し、実践することができた。 ・チェックイン、チェックアウトの意識をもっと持つ必要があると感じた。ボール中心ではなく、自身がどこに視野をあてるべきかを意識したい。 ・プレゼンは力強く、間をうまく取ることを心掛けたい。自分自身のプレゼンでは判定があっていたとしても、説得力に欠けることがあるので改善できるように努めたい。 ・プレーヤーとのコミュニケーションは意識することができた。 ・トレイルからセンターに入るのが遅れてしまう場面が何度かあった。クルーの様子を見て動けるようにしていきたい。 ・ゲームの映像を見ていると、判定はもちろんだが、走り方・所作などが上級のレフェリーの方と自分にとっても違いがあると感じたので、変えられるところから変えていきたい。 ・自身のプライマリーでビッグインパクトがあったが、そこにしっかりと視野があたっていない場面があった。プライマリーがどこかを意識し、見るべきプレーをしっかりと判定していきたい。				

2019 年 度 B 級 第 2 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 講 習 会
参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第37回 大阪学生バスケットボール選手権大会						
●日程	2019年 5月18日 (土)			～	2019年 5月19日 (日)		
●会場	大阪商業大学、関西大学						
●講師	湯浅 剛 様 黒岡 和哲 様 飯尾 勝紀 様 細見 竜太 様 村田 尚美 様						
●スケジュール	2019年 5月18日 (土)						
	10:00 集合・開講式 10:10 ルールテスト 11:00 実技講習開始 17:30 ホテル移動 18:30 座学研修 20:30 懇親会						
	2019年 5月19日 (日)						
	9:30 実技開始 14:30 閉講式						
●担当試合	2019年 5月18日 (土) 14:00 ～						
	対戦カード	大阪成蹊大学			VS		大阪教育大学
	クルー	CC	堂國 和昭 氏	U1	池嶋 一幸	U2	森 照代 氏
	講師／主任	黒岡 和哲 様					
	講評	・今やっているプレゼンテーションや、声を使うことは良い方向にいつているので継続して行っていく。 ・センターサイドの高い位置(センターライン付近等)でボール運び時のダブルチームなどが発生してビジーな状態の時に、リード、トレールが素早くアジャストしてしたのでプレゲームカンファレンスでの成果が出ていた。 ・プライマリーの意識が低い。ファウルは正解だが誰のエリアなのかを考え、セカンダリの意識を。 ・2vs3で判定が割れた時などに、もっとクルーとコミュニケーションをとる。T. Oにきちんと伝わっていなかったりトラブルの元なので、確認を徹底する。 ・プレイの始まりをとらえる。見えていてノーコールにすると、見えていなくてノーコールにするのでは、次につながる要素が変わってくる。 ・トレイルの時にリバウンドのボール保持までしっかりとステイしてみる。ニューリードに早く入ろうとしているので、ターンオーバーがあった時に対応できない。					
	自己の感想	・プレゼンテーションや、走り方など自分が課題を持ってやっていることに関しては、もっと研究して良いものにしていく。 ・プレゲームカンファレンスで話したことを実践することで、成功体験を積むことができたので次につなげていく。 ・ボールデッドの時などに、もっとクルーとコミュニケーションをとる。それが最終的にクルーだけでなく、チームへの信頼にもつながる。 ・ノーコールの説得力を上げるためにも、より止まって判定したりプライマリーを意識してコートに立つべきだと感じた。					
●担当試合	2019年 5月19日 (日) 9:30 ～						
	対戦カード	関西大学B			VS		大阪経済大学B
	クルー	CC	清瀬 未喜 氏	U1	玉上 大輔 氏	U2	池嶋 一幸
	講師／主任	湯浅 剛 様					
	講評	・ディフェンスの位置(リーガルガーディングポジション)を見て、ノーコールにしていた場面があったのはよかった。 ・オンボール時の判定はできているが、オフボール時の手の使い方などをもっと整理する必要がある。 ・1Qのテンポセットはよかったが、それを1ゲーム通してやり続ける。 ・声の使い方をもっと工夫する。1Qでは積極的に声を使用したらよいが、ゲーム終盤に関しては声ではなくて、笛を入れるほうが効果的である。 ・リードの位置に工夫が必要。エンドラインから離れすぎているので、プレイの始まりが確認しにくい。もう少し前で見ることプレイのストーリーがみえて、ファウルの種類が変わってくる。本当にNFだったのか、UFなのかを確認する必要がある。 ・プレゼンが基本的には良いが、くどいものがあるのもっと簡単にわかりやすく表現する。					
	自己の感想	・前日の課題でもあったノーコールについて自分なりに表現できたのはよかった。プレイの始まりをとらえ、ディフェンスを確認することでより良い判定につながる。笛を吹くことだけが判定ではないと感じた。 ・ボールウォッチの時間がまだあるので、意識してオフボールをみる。 ・声の使い方に関しては非常に勉強になった。今までは1ゲーム通してプレイヤーに話しかける場面が多かったが、声よりも笛を入れることでゲームコントロールをすることをできることを知った。 ・常にUFの可能性があることをもっと意識しないといけない。 ・この2日間で得たことがたくさんあるので、今後の課題も含めチャレンジしていくことが必要だと感じた。					

2019 年 度 第 2 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 講 習 会

参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第37回大阪学生バスケットボール選手権大会				
●日程	令和元年 5月18日(土)		～	令和元年 5月19日(日)	
●会場	大阪商業大学・関西大学				
●講師	大阪府審判委員会 インストラクター部				
●スケジュール	令和元年 5月18日(土)		大阪商業大学		
	10:00 集合・開講式				
	10:10 ルールテスト				
	11:00 実技講習開始				
	17:30 実技終了・ホテル移動				
	18:30 座学研修				
●担当試合	令和元年 5月18日(土)		14:00 ～		
	対戦カード	桃山学院大学		VS	大阪府立大学
	CC	高野 晃平 氏	U1	西田 尚樹 氏	U2 木村
	講師／主任	湯浅 剛 氏			
	講評	・リードのローテーション →ノッキングはメカの崩れにつながる。 迷うならローテーションする。 ・チェックイン →センターサイドにボールがきてチェックインするときは、 一歩寄ったり身体の向きを工夫したりして、 「受けましたよ」ということをクルーに分かりやすくする。 →アクティブマインドセット。 「判定に参加してますよ」という立ち方、身体の向き。 ・ニューリードになるときの走るコース →セットアップポジション、クローズダウンポジションに直線的に走る。 カーブしないように。			
	自己の感想	3POでのレフリーの機会も増えてきて、メカは比較的スムーズであったと思う。形だけになっている部分があるので、「なぜそのようなメカになっているか」をしっかりと理解し、目的をもった位置取りや視野の取り方をしていきたい。 プライマリの理解はまだまだ努力が必要だと感じた。いつチェックインするのか、いつチェックアウトするのか、どこからはじまったプレーなのか、フィニッシュはどこなのか。ただ見たものを判定するのではなく、エリアとアングルにこだわって笛を鳴らしていきたい。			

●担当試合	令和元年 5月19日(日) 9:30 ~				
	対戦カード	四天王寺大学		VS	大阪大谷大学
	CC	宮城 由紀 氏	U1	河崎 亮介 氏	U2 木村
	講師／主任	黒岡 和哲 氏			
	講評	・服装 →控室からコートへ出ていく時の上着はクルーで揃えるほうがよい。 ・レギュレーションの確認 →ユニホームは？靴下は？ベンチインの人数は？ ローカルルールの確認。 ・コートインスペクションの大切さ →たとえばサイドラインがベンチに近すぎるなど。 それによって予想されるメカの対応。PGCでの確認事項も変わってくる。 ・ブックマーク →クルーが判定したものを共有し、同じものを取り上げていく。 テンポセットにつなげていく。 ・POCの確認 →レポーター時のファウルの種類を誤ると不信感につながる。			
自己の感想	レフリーとしてのこだわりを持つことの大切さを知った。コートへ出るときの上着をクルーで揃えることは今まで全く意識したことがなかったので、そのような点も含め、もう一度自分の理想のレフリー像をしっかりとイメージし、細かなこだわりを持っていきたい。 試合前日までの準備、会場に到着してから開始10分前までの準備、開始10分前からティップオフまでの準備。その試合に向けた準備がまだまだ足りないと感じた。試合が始まってからベストを尽くすのは当然だが、そこに至るまでの部分にも力を入れていかなければいけないと感じた。				
●担当試合	令和元年 5月19日(日) 14:00 ~				
	対戦カード	森ノ宮医療大学		VS	関西大学A
	CC	村田 尚美 氏	U1	玉上 大輔 氏	U2 木村
	講師／主任	なし			
	講評	なし。クルーでのポストゲームカンファレンス。 ・ピーク&フラッシュの協力はよくできていた →トラブルにはならなかったがクルー間で2or3が分かれていた時があった。 「だろう」で出さない。しっかりと確認できたものを示す。 ・ニュートレイルはボールを抜かさないように →リスタート時のスローイン。スロワーよりも先にコートに入らないように。 遠投時にラインを踏むヴァイオレーションを見逃さず宣うことができていた。 ・フルコートDF時の3POでの対応 →センターの協力がスムーズにできていた。 ・チームファウルの確認 →共有ができていた時もあればできていない時もあった。 習慣にする。			
自己の感想	【2日間を通して】 宿泊を伴う研修に参加することは初めてで不安も少しありましたが、講師の方や受講生の方から様々な話を聞くことができ、また、たくさんの刺激を受け、レフリーへの意欲がより高まった2日間でした。 座学研修での、『今のレフリーに求められること』は「常に新しい情報をキャッチすること」「変化に対応できること」というお話がとても印象的で、私もいろいろな場所に足を運び、積極的に情報を掴みにいかなければいけないと感じました。 最後になりましたが、2日間ご指導いただいた講師の皆様に心より感謝申し上げます。				

2019 年 度 第 2 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 講 習 会
参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第37回 大阪学生バスケットボール選手権大会		
●日程	令和1年5月18日 (土) ~ 令和1年5月19日 (日)		
●会場	大阪商業大学 関西大学		
●講師	大阪府審判委員会インストラクター部		
●スケジュール	令和元年5月18日 (土)		
	10:00 開講式 10:10 ルールテスト 11:00 実技開始 18:30 座学研修 20:30 懇親会		
	令和元年5月19日 (日)		
	9:30 実技開始 第4試合終了後 閉講式		
●担当試合	令和元年5月19日 (日) ~		
	対戦カード	大阪経済大学A VS 摂南大学	
	相手審判	CC 細見 竜太	U2 四谷 和久
	講師／主任	飯尾 勝紀 氏	
	講評	・自分自身で気づいている通り、吹いたファウルの中で吹く必要のないものは無くしていく。 ・最新のメカニクス、マニュアルの習得に努める。特にStay with the play を意識する。 ・ファウルを吹いた後のレポーターポジションは終始昔のままのやり方で、テーブルオフィシャルに向かってコールしていた。 ・撮影した映像を見て自身で振り返りが必要。	
	自己の感想	長い審判休止期間からの初の公式戦復帰である今回の講習会に、様々な準備をして挑んだと思っても、コートに立てば自分自身の走力、体力、技術力の足りなさを痛感した1試合となりました。映像で振り返ると更に思い知らされます。A級として、コートに立つからには相当な変化が必要と感じます。最新のメカニクス、マニュアル等、早急に身につけ、まずは次の試合に向けて準備していきたいと思っております。 最後になりましたがこの講習会を企画運営して頂きました方々、ご足労頂きました講師の方々に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。	

以上

2019 年 度 第 2 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 講 習 会
参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第37回大阪学生バスケットボール選手権大会					
●日程	令和元年5月18日		(土)	～	令和元年5月19日	(日)
●会場	【18日】大阪商業大学・【19日】関西大学					
●講師	湯浅 剛 様・黒岡 和哲 様・飯尾 勝紀 様・村田 尚美 様					
●スケジュール	令和元年5月18日 (土)					
	10:00 集合・開講式					
	10:10 ルールテスト					
	11:00 実技講習開始					
	15:30 担当ゲーム					
	18:30 座学研修					
●担当試合	20:30 夕食					
	令和元年5月19日 (日)					
	9:15 会場到着					
	9:30 実技開始					
	11:00 担当ゲーム					
	14:30 閉講式					
●担当試合	令和元年5月18日 (土) 15:30 ～					
	対戦カード	大阪学院大学B		VS	近畿大学B	
	CC	北村	U1	河崎 亮介 氏	U2	木村 桃子 氏
	講師／主任	飯尾 勝紀 様				
	講評	ゲームの序盤は、クルーとしてのローテーションのタイミングが合っていなかったが、徐々に改善されていった。CCのローテーション中の歩くスピードが遅かった。U1とU2のファウルコールが多いなかで、CCとして何をコールするかが問われていた。特に象徴的なシーンとして、U1のファウルコールに対して、大阪学院大学のコーチから大きなアピールがあり、すぐに私がオフィシャルワーニングをコーチに対して示したが、テクニカルファウルを吹くことが相応しい場面であったとの講評であった。				
	自己の感想	ゲームの序盤で、トレイルからセンターヘローテーションする際に、チェックアウトが遅くてダブルトレイルを作ってしまうケースがあった。ハーフタイムにクルーとコミュニケーションをとることにより、後半は意識できた。 ローテーション中の歩くスピードは、ご指摘を受けて、習慣的に遅くなっていたように感じた。それによりメカニクスを崩してしまっているケースがあったので、気をつけたい。プレーコーリングの点では、トラベリングの判定や、映像で確認したうえで、オヴィアスとは言い難いファウルをコールしていた点が、ベンチや選手との信頼関係を崩れてしまう原因の一つになっていたと感じる。 自分自身の課題である、テクニカルファウルの基準が作れなかったことは、克服できなかった課題として残った。大きなアピールに対して、何も示さないことはありえないと思い、すぐにオフィシャルワーニングを示したが、それによってコーチの感情表現がおさまったわけではなく、映像で確認しても、大きな声を出して、アピールをし続けている様子が見られたので、テクニカルファウルを吹くことが相応しかったと思った。				

●担当試合	令和元年5月19日（日） 11:00 ～					
	対戦カード	関西大学A		VS		大阪工業大学
	CC	北村	U1	平出 圭佑 氏	U2	重松 志保 氏
	講師／主任	村田 尚美 様				
	講評	クルーワークが良く、ゲームをすすめられていった。3人でアイコンタクトをとっているシーンが多くあった。時間の管理の意識も、3人ともが高かった。プライマリがファウルコールしなかったときにも、セカンダリからコールがあり、セカンダリのレフリーのアクティブマインドセットができていた。				
	自己の感想	前日のゲームの課題について、意識して取り組むことができた。チェックアウトと同時に、トレイルからセンターになる動きや、リードのローテーション中の歩くスピードを速めても、メカニクスのバランスを崩すことにはならず、改めてベーシックを確認できたと思う。 セカンダリとして、ファウルをコールするプレーの精選や、コールするタイミングについて、これまで課題があったが、今回のゲームでは、プライマリのレフリーがファウルをコールしなかった際に、タイミングよくファウルをコールすることができていたと講評を頂き、自信につながった。				

第 2 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 講 習 会
参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第37回 大阪学生バスケットボール選手権大会		
●日程	2019年5月18日	(土) ~	2019年5月19日 (日)
●会場	大阪商業大学、関西大学体育館		
●講師	黒岡 和哲 様 大阪府審判委員会インストラクター部		
●スケジュール	2019年5月18日 (土)		
	10:00 開講式 10:10 ルールテスト 11:00 実技開始 18:30 座学研修 20:30 懇親会		
	2019年5月19日 (日) ~		
	9:30 実技講習開始 16:00 閉講式		
●担当試合	2019年5月19日 (日) 9:30 ~		
	対戦カード	四天大 VS 大大谷	
	主審	CC 宮城由紀 U1 河崎 亮介	U2 木村 裕也
	講師／主任	黒岡 和哲氏	
	講評	・全体として、昔スタイルから抜け出せていない。 ・ゲーム前にはコート設営の確認、コートマネジメント、選手ユニフォーム(靴下、サポーターの色)などが異なれば大会運営サイドに確認などが必要である。 ・ゲーム中にブックマークをし、クレーで共通認識を持つこと。 ・ファウルの種類が異なる。プロテクトシュートの場合はプッシングである。	
	自己の感想	・長年の染み付いた審判スタイルを改革するには、相当の努力が必要である。 ・「改革」「変化」に対し常に情報を収集し、柔軟に対応しなければ、今の時代にはついていけず、取り残されることになるかと危機感を再認識した。	

令和元年度第2回ステップアップ研修会
参加報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第37回 大阪学生バスケットボール選手権大会						
●日程	令和元年5月18日 (土)			～		令和元年5月19日 (日)	
●会場	大阪商業大学、関西大学						
●講師	湯浅 剛氏、黒岡 和哲氏 飯尾 勝紀氏、村田 尚美氏、細見 竜太氏						
●スケジュール	令和元年5月18日 (土)						
	10:00 集合・開講式						
	10:10 ルールテスト						
	11:00 実技講習開始						
	18:30 座学研修						
●担当試合	令和元年5月18日 (土) 15:30 ～						
	対戦カード	大阪学院大学B			VS		近畿大学B
	主審	CC	北村 仁氏	U1	河崎 亮介氏	U2	木村 桃子
	講師／主任	飯尾 勝紀氏					
	講評	・前半のメカニクはやや崩れているところや、クレーワークとしてうまくかみ合っていない部分があったが、後半は少しずつ修正できていた。 ・ほかのクレーが判定したことを自己の中に残しておくこと(ブックマーク)が出来ていれば、判定の説得力が上がる。 ・ベンチ管理として即座のテクニカルファウルの処置も頭にいれておいてもいい。 特に質問ではなく異議申し立てに対して更に態度が明らかに意義を申し立てている状態では警告だけでは弱いため、即座にテクニカルファウルの決断を頭に入れておく。 ・他のクレーが判定した現象に対して、ブックマークしつつ、自分が判定する場合でも同様に取り上げる。					
自己の感想	PGCにてベーシックなメカニクの確認、新ルールの確認、クレーワークの確認を行い、TO管理としてゲームクロック、ショットクロックの管理をしっかり行っていくことを共有しました。また自身としてはイリーガルな手の使い方の判定を行っていくという心構えでゲームに臨みました。3人でクロック管理を行うつもりでしたが、曖昧になっている時間帯もあり、常に時間を確認する意識を再度持たなければならぬと感じました。メカに関しては、チェックアウトが全体的に遅く、2人のクレーの視野が被る時間帯が要所要所で見られたため、クレーとして修正していく必要があったため、そういった細かいメカの話し合いもPGCにて話し合うべき内容であったと感じました。						
●担当試合	令和元年5月19日 (日) 12:30 ～						
	対戦カード	大阪体育大学B			VS		四天王寺大学
	主審	CC	開 康寿氏	U1	田中 孝史氏	U2	木村 桃子
	講師／主任	黒岡 和哲氏					
	講評	・ゲーム冒頭に手に対してのテンポセッティングが行えていたことはよかったが、それを最後まで継続していくことがまだ甘かった。 ・どこが見なければならぬビジョナリーなプレイとなるかを予測した上でのポジショニング、特にトレイルの高さが高すぎないように。 ・ゲームがライブになる前に確認できることは確認しておく、EOQ・EOGのタイマー管理やツーモア、ネクストボーナスなど確認できることはお互い確認しておく。					
自己の感想	PGCにてベーシックなメカニクの確認、新ルールの確認、ガイドラインに則って判定を行っていくことを確認しました。ガイドラインに則ったイリーガルな手の判定はゲーム冒頭からトライはできましたが、後半になっても判定の数は減らなかったため、もう少し選手が何で吹かれているかが伝わるような判定の仕方でも心がけてよかったのかと思いました。TOの管理が甘いところが要所要所であり、クレーとして確認すべきことが足りていなかったと感じました。しかし、足りていないところをゲーム中にクレーで共有し、修正をかけられたことは良いところであったと考えます。メカニクはベーシックに行えておりましたが、細かいポジションの取り方にまだ修正が必要などところがあるかと考えます。						

第2回

ステップアップ講習会

参加報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第37回 大阪学生バスケットボール選手権大会		
●日程	令和1年5月18日	(土) ~	令和1年5月19日 (日)
●会場	大阪商業大学・関西大学		
●講師	大阪府審判委員会 インストラクター部 様		
●スケジュール	令和1年5月18日 (土)		
	10:00 集合・開講式 10:10 ルールテスト 11:00 実技開始 (適宜ホテルへ移動) 18:50 座学研修 懇親会20:30		
	令和1年5月19日 (日)		
	07:30 ミーティング(ホテルにてクルー3人) 08:30 会場到着・更衣・準備 09:30 実技開始 15:30 閉講式 16:00 解散		
●担当試合	令和1年5月18日 (土)		
	対戦カード	大商大 VS 大外大	
	審判	CC:開 氏 U1:清瀬 U2:廣瀬 氏	
	講師／主任	飯尾氏	
	講評	・EOG残り約1分での判定、マージナル。最後の最後までもったいない。 ・インパクトのあるケース、セカンダリーで笛が入っていて良かった。 ・TOが誤って鳴らしてしまったとしても、落ち着いて対応。 ・スローインの再開位置や正しいゲームクロック、ショットクロックの正しい表示での再開。	
	自己の感想	「プレゼンテーション」を一番のテーマに臨みました。 映像で振り返ってみても、以前よりかは少しではあるが、コールからレポートまでの間を余裕を持って取れるようにはなってきた。これを習慣に出来るよう継続したい。 次は、カウントの合図やディレクションの出し方、オフェンスファウルのコールの仕方など、細かい所にもこだわりを持ち、決して誇張や過大になることなく、より自身を大きく、強く見せるプレゼンを心掛けたい。 ゲームの内容に関しては、終盤までしっかりとインパクトに対しては判定することができたが、関大B(特に交代メンバー)の悪い手の使い方に対して、もっと早い段階で判定していくべきだった。 また、終盤(残り約1分)で、TOトラブルがあったその直後からマージナルコールなど自身の判定が不安定になってしまい、そのまま終了してしまった。やはり、最後の最後まで落ち着いて判定し続ける事が大事だと改めて感じ、またそうってしまった原因や心境の変化ももう一度振り返り、今後に生かしたい。	

●担当試合	令和1年5月19日 (日)		
	対戦カード	関大B	VS 大経大B
	審判	CC:清瀬 U1:玉上 氏 U2:池嶋 氏	
	講師／主任	湯浅氏	
	講評	・ゲームの入り方、1Qのテンポセッティング良かった。 ・2Qでマージナルなものを取り上げたケース、映像確認。 ・UF(C2)でもいいくらいのケース。 Tからも判定できていたら、クルーで集まりグレードアップもできた場面。 ・ベンチ対応。コーチがベンチエリアを出てアピール。「まあまあ」で抑えるのではなく、ダイレクトにTFか、せめてワーニングを入れてほしい場面だった。 毅然たる態度でいること。	
	自己の感想	1日目のゲーム内容とはまた違い、お互いに激しくスピード感のある展開だった。あらゆるところで常に何か起きそうな流れの中、クルーで話をしながら、メカの修正やこれからの展開を予測しながら進めていくことができた。 1番の課題であるプレゼンの次の課題に「マージナルコールを減らす、無くす」ということを課題にしている。しかし、このゲームにおいても特に2Qでいくつかあり、映像で見ると、やはりその時はポジショニングが遅れて動きながらの判定になっていること、またそのコールの直前にベンチやプレイヤーからノイズが入った直後であること。これらがきっかけになっているので、今後少しずつで修正していきたい。 ゲーム終盤、クルーのコールに対してコーチの異論表現(ベンチを完全に出てアピール)があったことに対して、TFを宣するどころか、ワーニングすら入れることができなかった。こういう時こそ、決して感情的になることなくガイドライン通り、起きた振る舞いに対しては毅然たる態度で対応したい。 2日間のゲームを通して、終盤においてやや判定がぶれてしまっていたり、きっちり終わらせることが出来ていなかった。観客から見ての印象も最後で決まるという「EOG」の重要性を感じ、最後の最後までレフリーすることが大切であると改めて感じた2日間だった。 最後に、この2日間の為の準備、そして講話やミーティングを丁寧にして下さったインストラクターの方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。	

2019 年 度 第 2 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 講 習 会

参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第37回大阪学生バスケットボール選手権大会					
●日程	令和元年5月18日(土)～5月19日(日)					
●会場	大阪商業大学、関西大学					
●講師	湯浅 剛様・黒岡 和哲様・飯尾 勝紀様					
●スケジュール	令和元年5月18日 (土)					
	10:00集合・開講式 11:00実技講習開始 17:30ホテル移動 18:30座学研修 20:30懇親会(ホテル内)					
	令和元年5月19日 (日)					
	第一試合割当者は適宜移動 第二試合以降の割当者は9:30までに控室集合 随時実技講習開始 14:30 閉講式 (終了後、ルールテスト未実施の方は随時、受験する)					
●担当試合①	令和元年5月18日 (土) 12:30 ～					
	対戦カード	近大B		VS		太学大
		CC	石川 淳 氏	U1	玉上 大輔氏	U2 花谷 槇子
	講師／主任	黒岡 和哲様				
	講評	前回到引き続き、時計の管理の意識が見えるのは良いこと。 4Q残り2分を切ってタイマーが流れた際に気付いていたのであれば、それが伝わるように出すべきである。 24秒についても継続の場合、14秒にリセットする場合と常に確認するように。 判定しているものに関して、POCの確認をしっかりとすること。 現場で吹いたものと、レポートに行った際のコールが違うと説得力に欠ける。 スコアに記載のない番号の人がでてきたときに、誰も気づいていなくて、スローインを始めてしまい、TOがブザーでゲームを止めたことに対して、もっと早く気がつかなかったか。 処置は正しかったのか。				
	自己の感想	前回の講習会でご指摘いただいた、大会要項やユニフォームの規定についての確認であったり、コートデザイン等、クレーで確認した中でゲームに挑みました。 しかし、ゲーム中にスコアに記載のない人がゲームにでてきたときに、確認できていなくてそのままスローインをさせてしまったケースで、再度競技規則の確認をしました。 以前の競技規則にはスコアに記載がない人が出てきた場合にはテクニカルファウルになりスコアに名前があり、番号のみ違った場合は罰則は与えず、スコアの番号を書き換えて再開する。とありましたが、今の競技規則にはそういった内容は載っていませんでした。 ゲーム中にクレーとアイコンタクトをとるだけでなく、TOともコミュニケーション、アイコンタクトをとるべきだと再確認しました。この機会に競技規則の再確認もできたので今後のゲームで活かせるように意識して取り組んでいきたいと思いました。				

●担当試合②	令和元年5月19日（日） 12:30 ～						
	対戦カード	大阪経済大学B			VS	阪南大学	
		CC	大倉 哲也氏	U1	正水 剛氏	U2	花谷 槇子
	講師／主任	湯浅 剛様					
	講評	特に難しいケースもない淡々としたゲームで、明らかなバイオレーションを逃してしまうと、チームから大きく信頼を失ってしまう。遅れてでも良いから笛を鳴らすこともトライ。まずはプライマリエリアの人がコール、でも明らかなものに関してはセカンダリーで鳴らす準備も必要。 沢山現象があるわけではないので、その際に1つ1つの判定が大きくクローズアップされるので、最後まで集中してゲームに挑むこと。					
	自己の感想	4Qで、2:02でショットが入り、スローインをする際に2:00になった時にTOがタイマーを止める。ということがゲーム中に起こりました。たまたま、すぐにスローインが行われましたが、気付いたのであれば、TOとコミュニケーションをとる方法もあったと反省しました。 気付いた時に自分がどのように対応していくのかということ、こういったことがゲーム中に起こったことで未然に防ぐためには何ができたのか、と考えた時に、タイマーとの連携（特に選手はこういった細かなルールを知らない場合もあるので、事前に伝えておく）ことで解決できるのではないかと思います。 自分のプライマリで明らかなバイオレーションが起こったときに、「これは何のバイオレーションだ？」と変に考えてしまい、コールできなかったことは本当に大きな反省でした。夜の講話でのお話も含めて、この2日間で学んだことを今後のゲームで活かせるように日々努力していきたいと思います。2日間本当にありがとうございました。					

2019年度第2回ステップアップ講習会

参加報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第37回大阪学生バスケットボール選手権大会					
●日程	令和元年5月18日（土）～令和元年5月19日（日）					
●会場	大阪商業大学体育館（18日）・関西大学体育館（19日）					
●講師	黒岡 和哲 様・湯浅 剛 様・飯尾 勝紀 様・村田 尚美 様					
●スケジュール	令和元年5月18日（土）					
	10:00 集合・開講式 18:30 座学研修（講師：黒岡様・湯浅様） 10:10 ルールテスト 20:30 懇親会 11:00 実技講習開始 17:30 ホテルへ移動					
	令和元年5月19日（日）					
	各自実技割当の時間にあわせて集合 9:30 実技講習開始 16:00 閉講式					
●担当試合	令和元年5月18日（土） 12:30 ～					
	対戦カード	近畿大学B		VS		太成学院大学
	主審	CC	石川 淳也	U1	玉上 大輔氏	U2 花谷 槇子氏
	講師／主任	黒岡 和哲 様				
	講評	・一試合を通して、判定に特に大きな問題はなかった。クロック管理も含めてクルーチーフメンタリティを発揮していたことは良かったと思う。 ・プライマリの理解をもっと深めてほしい→ダブルコールでTOへのコールに間があったケースあり。優先順位は①エリア→②アングルである。 ・判定の中で、最後まで確認をしてほしいものがあった。 （トラベリング→ファウルの判定、OBB→本当にラインをふんでいたか？） ・動きながらの判定や慌てて確認する動き（3VS2・プロテクトシューター）が見られた。特にトレイルでオフェンスの背中越しに位置取りをしている時に多かった。 →動きながらの確認では遅い。立ち止まって確認・判定できる位置取りを意識。 ・リードのアングルは基本45度のアウトサイド・インだが、3VS2のヘルプの時も45度のアングルでヘルプしていたので、本当に確認できているのか？ →ヘルプの時はエンドラインにフラットのアングルでヘルプをする。 ・OBBのヘルプを求めすぎではないか？（2回） →クルーワークへの影響やプレーヤー・コーチからの不信感につながる。 ・以上のことをふまえ、新しい情報を早く自分のものにして、時代の変化にあわせてレフェリングをしてほしい。				
	自己の感想	・クルーとかなり時間をかけてプレカンを行い、共通認識を持ってゲームに臨めたので、メカニクスも途中で修正することもできクルーワークは概ね良かったと感じる。 ・課題も多くあったが、特に動きながらの判定や慌てて確認する動きが大きな課題である。「どこで見たら止まって見えるのか？」を追求し、また講師黒岡様から教えていただきました「FUL（F…フット U…アップ L…ランディング）」を意識して、次の試合から立ち止まって見える位置取りを心がけたい。 ・座学研修では、黒岡様からゲームに向けての準備の大切さ（資料作成・審判ができる環境づくり等）を、湯浅様から現在の審判員に求められることについて、ご講義いただきました。改めてJBAが求めていることを理解し、準備することの大切さを痛感しました。				

令和元年5月19日（日） 11:00 ～						
対戦カード	摂南大学		VS		関西外国語大学	
主審	CC	石川 淳也	U1	西田 尚樹氏	U2	森 照代氏
講師／主任	飯尾 勝紀 様					
講評	・クルーワークがとても良く、そのことがゲームレベルにマッチした良い判定につながっていた。3人の共通認識があって3POの強みが出ていたことがとても良かった。 ・3VS2のヘルプも意識してクルー全員で取り組んでいたことも良かった。きわどいケースが1つあったが、映像で確認しても正しい判定だったので良かったと思う。 ・リードのプライマリエリアでジャンプショットのファウルをトレイルに任せている感じがする。トレイルが判定していれば問題ないように見えるが、トレイルが判定できなかったり、またリードしか判定できないケースもあるので、判定をしてほしい。（リードのアングルも含めて） ・リードでローテーション→フィニッシュしてから、さらに開いて(動いて)判定をするケースがあった。センターも見ているので、センターに（判定を）任せても良かったのではないかな。					
自己の感想	・昨日に引き続き、プレカンに時間をかけて3人で共通認識を持ってゲームに臨み、ゲーム中もクルーでコミュニケーションをとり、メカニクスも大きな崩れもなく、スムーズなゲーム運営ができたことは良かったと思う。 ・大きな課題である「動きながらの判定」や「慌てて確認する動き」については、トレイルについては昨日に比べて少なくなったと思うが、リードでは若干あった。今後も位置取りの工夫（追求）をして良い判定につなげたい。 ・リードのプライマリの理解やクルーの位置を見ることについては課題が残った。次の試合で意識をしたい。 2日間の研修会で、「準備することの大切さ」を改めて学びました。試合数日前から当日のプレカンも含めて、時間をかけてクルーで共通認識を持ってゲームに臨むと、クルーワークも良くなり、より良い判定につながることを改めて感じました。この点は大きな収穫でした。 しかし、動きながらの判定や慌てて確認する動き、プライマリの理解やアングルの取り方など、課題も多く感じました。また講師（I R）のみなさまの講義や実技のアドバイスもとても参考になりました。 S級審判員を目指して、本研修会での収穫を今後に生かし、課題克服に努めていきます。また、最新の情報を早く自分のものして、時代の変化にフィットしたレフェリングを心がけていきます。 最後になりましたが、この研修会を企画・開催・運営していただき、貴重な経験をさせていただきました大阪府協会黒岡審判委員長をはじめ、講師のみなさま、審判委員会のみなさまに改めて感謝申し上げます。今後とも、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。本当にありがとうございました。					

令和元年第2回ステップアップ研修

参加報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第37回大阪学生バスケットボール選手権大会			
●日程	令和元年5月18日（土）		～	令和元年5月19日（日）
●会場	大阪商業大学・関西大学			
●講師	湯浅様 黒岡様 飯尾様 村田様			
●スケジュール	令和元年5月18日（土）			
	10:00 集合・開校式 10:10 ルールテスト 11:00 実技講習開始 17:30 ホテル移動 18:30 座学開始 20:30 懇親会			
	令和元年5月19日（日）			
	9:30 までに控室に集合（随時、実技講習開始） 14:30 閉講式			
●担当試合	令和元年5月18日（土） 11:00～			
	対戦カード	大教大		VS 大経法
	主審	CC:大倉 哲也氏	U1:四谷 和久氏	U2:重松 志保
	講師／主任	湯浅氏		
	講評	・必要な場面でのgood callも見られる中で、プレゼンテーションに更に磨きをかけ説得力につなげよう。プレゼンテーションは練習で必ずよくなる。 ・メカに関して1歩のポジション・アジャストにチャレンジしてください。 ・トレイルの時の味方に工夫が必要		
●担当試合	令和元年5月19日（日） 11:00～			
	対戦カード	関大A		VS 大工大
	主審	CC:北村 仁 氏	U1:平出 圭佑 氏	U2:重松 志保
	講師／主任	村田氏		
	講評	・力強いプレゼンテーション、走り方がよかった。 ・前半は自分の判定をしっかりと貫いて吹いていた分、後半の自分のプライマリエアでの判定が失速してしまっていた。 ・メカや決断力の継続を1試合通せるようになるために準備。		
	自己の感想	大きなトラブルなく比較的スムーズにゲームを終えれたのはPGCを入念にすることで準備をし共通理解共通意識がクルーワークのコミュニケーションをしっかりと取れていたことがよかったのかなと考えます。また、クルー間でのアイコンタクトやヘルプがお互いに出来たのかなと思います。 トレイルやリードの体の角度や見方をもう少し工夫しプレイにアジャスト、コネクトする為の1歩2歩のこだわりを持って、動きを意識するとでよい判定ができることを改めて学ばせていただきました。 自己の課題であるプレゼンテーションがまだまだ力強なくて意識していてもできていないのは準備不足であること痛感しました。映像から振り返り、どこかしら落ち着きがないように見えたり、弱弱しく見えてしまっているなと思いました。どのようにすれば良いのか自身の映像だけではなくトップレフェリーの映像を見て研究し次につなげていけるよう実践していきます。		

第 2 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 研 修 会
参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第37回 大阪学生バスケットボール選手権大会					
●日程	2019年5月18日		(土)	～	2019年5月19日	(日)
●会場	大阪商業大学・関西大学					
●講師	大阪府審判委員会インストラクター部					
●スケジュール	5月18日 (土)					
	10:00	集合・開講式				
	10:10	ルールテスト				
	11:00	実技講習開始				
	17:30	ホテル移動				
	18:30	座学研修				
	20:30	懇親会				
●担当試合	5月19日 (日) 12:30 ～					
	対戦カード	大阪体育大学B		VS	四天王寺大学	
	審判	CC 開 康寿 氏	U1 田中 孝史	U2 木村 桃子 氏		
●担当試合	講師／主任	黒岡 和哲 様				
	講評	1ゲーム通して力の差があるゲームというのは予測出来たと思うので、取り上げたファウルの中で、Marginalなものは取り上げない。ゲームが進むにつれてボールウォッチャーになっている事が原因で、Marginalなものまで取り上げてしまっているし、OverOfficiatingをしてしまう。ゲーム中、1stブレイクのImpactが強かったケースでLEAD・CENTREが判定出来なく、TRAILからのOverOfficiatingした判定は良かったと思う。その他のOverOfficiatingは相手Refereeが良いアングルが取れていてNoCallにしている事もある。OverOfficiatingをするのであれば、Impactが大きくて相手Refereeが判定出来なく、尚且つ自分が良いアングルが取れていなければいけない。アンスポーツマンライクファウルレベルのケースでは相手Refereeに歩み寄り言葉をかける工夫をすべきである。今求められているRefereeになるには色々な事をもっとゲーム中に考えてそのゲームに似合ったRefereeingをする事。				
	自己の感想	ゲーム中Mechanicsが崩れる原因を作ってしまったので、今後Mechanicsが崩れる原因を作らない、と強く思います。講評でも話が出たOverOfficiatingですが、ゲーム時間が経つにつれてボールウォッチャーになっている事が原因でファウルとして取り上げてしまっているの、自分のPrimaryをしっかり1ゲーム通して見続けたいと思います。アンスポーツマンライクレベルのケースでは、相手Refereeと言葉を交わすときの工夫やCCMを出しアンスポーツマンライクに変える事も必要だと思いますし、そのことが今の自分の一番の反省点でもあり、課題だと感じます。今求められるRefereeになる為に色々な情報を得て、自分の力にしたいと強く思います。最後になりましたが、この講習会を企画運営してくださいました方々、講師の方々、このような機会を与えてくださいました方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。				

2019 年 度 第 2 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 講 習 会
参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第37回大阪学生バスケットボール選手権大会			
●日程	令和元年5月18日(土) ～ 5月19日(日)			
●会場	大阪商業大学体育館 / 関西大学体育館			
●講師	黒岡 和哲 様・飯尾 勝紀 様・湯浅 剛 様・村田 尚美 様・原 一正 様 大阪府審判委員会指導部・インストラクター委員会			
●スケジュール	令和元年5月18日 (土)			
	10時00分	集合・開校式(第1試合割当者は事前に更衣可)		
	10時10分	ルールテスト		
	11時00分	実技講習会開始		
	17時30分	ホテル移動		
●スケジュール	18時30分	座学研修		
	20時30分	懇親会		
	令和元年5月19日 (日)			
	9時30分	控え室集合(随時、実技講習会開始)		
	14時30分	閉講式		
●担当試合	令和元年5月18日 (土) 12:30 ～			
	対戦カード	近畿大学B VS		太成学院大学
	審判	CC 石川 淳也 氏(A級)	U1 玉上 大輔	U2 花谷 槇子 氏
	講師／主任	黒岡 和哲 様		
	講評	goodコールであってもプレゼンテーションがよくない。肘が曲がってるのが目立っている。シューターに対して動きながら判定をしている。予測をしながら判定をする。ful(フット、アップ、ランド)をしっかり見ること。4Qのゲーム終わりの笛が遅い。プライマリーが自分だということがわかっていたのか。積極的に笛を入れる。TOがブザーを5回鳴らしているのになぜ気づくのが遅くなるのか。ゲームクロックが流れている場面で一番遠いLプライマリーが鳴らしていた。近くのレフリーは気づいていなかったのか。TとCからの判定ができていない。アングルとプライマリーをしっかり掴む。		
●担当試合	自己の感想	映像で振り返りをした際、CtoC、TとLが遅かった。プレイの状況などを見て判断よくスタートできるようにしたい。Lの移動からのCtoTが遅く、見るべきところが見れていなかった。リバウンドからのNEW Lが遅かった。ゲームの質が上がるとプレイが早くなるため、課題であるフィットネスの強化、改善が必要だと再認識した。Cプライマリー(自分)からの始まりに目を向けていなかったため、セカンダリーで吹かれていることが多かった。Cのセットアップポジションでステイが多い。ボールレベルに合わせて上げたり下げたりするなど、アングルの工夫が必要だった。テーブルサイドでファウルが起きた時のローテーションはスムーズにできた。Lのアングルの取り方が悪い、見るべきところが見れていない。ターンオーバーが起きたNEW Tの入りが遅い。プレゼンテーションにシャープさと力強さが無い。課題である、状況にマッチしたプレゼンテーションができるように改善したい。Aコート、Bコート共に同じブザーの音色だったため、勘違いからTOのブザーに気づくことができなかった。最初の確認でブザーの音色を変えておくべきだった。1ゲームを通してステイしているときの姿勢が良くなく、目立っていたため、コート内での姿勢も意識してゲームに取り組みたい。		
	令和元年5月19日 (日) 9:30 ～			
	対戦カード	関西大学B VS		大阪経済大学B
	審判	CC 清瀬 末喜 氏(A級)	U1 玉上 大輔	U2 池島 一幸
	講師／主任	湯浅 剛 様		
●担当試合	講評	LがチェックインしてからのCtoTができていない。Lのボールサイドのスキャンザペイントで何も無いミッドレーンを見ている。危険なところをスキャンザペイントしないといけない。3Pのところをfulをしっかりしてから3Por2Pのジェスチャーをすること。確認ができていないように見える。Lの移動時はリラックスして移動するほうがよい。力が入りすぎている。4Qのプレスの触れ合いについての判定はどうだったか。UFも頭に入れながらできていたか。4Qの終盤の2ペア以上(8名)のときの位置が高いため、もう少し低めで判定するほうがよい。前半より後半の方がゲームの質と荒れていたのは気づいていたか。		
	自己の感想	今回、CtoC、TとLは意識しながら行っただけでできていたが、アングルの取り方はもう少し工夫が必要である。ボール中心になっているため、Lがチェックインボールサイドにチェックインしていることに気づくのが遅く、CtoTができていなかったため課題としたい。また、映像で振り返ると、LTCのポジションからファウルを取り上げたとき、TOに近づいてプレゼンテーションをしていた。そのためローテーションやリスタートが遅くなった点を改善したい。レフリーディフェンス、プレイヤーに目を当てるのが遅く、ターンオーバーからのセンターライン付近のインパクトが判定(足を引っ掛けられている)、笛が吹けなかった。4Qのオールコートプレスの触れ合いの判定で、時間帯やクライテリアを頭に入れながら、UFの決断ができず、パーソナルファウルの判定をしてしまったため、判断力・決断力をつけることが必要である。Lのボールサイドへ移動する時、かなり力んでいることが映像からわかり、ボールサイドへ移動するときはリラックスして移動したい。		

第2回 ステップアップ講習会

参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第37回 大阪学生バスケットボール選手権大会		
●日程	令和元年5月18日	(土) ~	令和元年5月19日 (日)
●会場	大阪商業大学・関西大学		
●講師	黒岡和哲様 湯浅剛様 飯尾勝紀様		
●スケジュール	令和元年5月18日 (土)		
	10:00 開講式 10:10 ルールテスト 11:00 実技講習開始 17:30 ホテル移動 18:30 座学研修 20:30 懇親会		
●担当試合	令和元年5月18日 (土) 11:00 ~		
	対戦カード	大阪府立大学 VS 大阪産業大学B	
	主審	CC 細見氏	U 正水氏 太田
	講師／主任	黒岡和哲様	
	講評	・ボールの確認など事前に準備し試合を遅らせない努力をすべき ・クルーでの統一感 ・プロテクトシューターについて判定に欠けていた。FUL(F;foot U;up L;land)の確認を。最後の着地まで。 ・プレゼンテーションへの意識が足りない ・ドライブに対しての判定が4Qまでなされていなかった。4Qから急に鳴ったイメージである。 ・クルーでのプライマリーの理解。ダブルコール時のプライマリーが譲ってしまうケースが数回あった。	
	自己の感想	・プレゼンテーションはずっと意識して自分の出したい強さでもあるものを中途半端になってしまった。AOSの確認、シューターの確認が不足したり、確認に時間を要してしまうことで崩れやすい。 ・プロテクトシューターへの意識が足りなかった。手が当たっていないことを確認し、着地の接触を捉えきれていない。 ・もっと声を使ったり、笛の強弱をつけて試合にマッチしていきたい	

第 2 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 研 修 会
参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	大阪学生バスケットボール選手権大会						
●日程	令和元年5月18日（土） ～ 令和元年5月19日（日）						
●会場	大阪商業大学・関西大学						
●講師	湯浅 剛 様 黒岡 和哲 様 飯尾 勝紀 様 村田 尚美 様						
●スケジュール	令和元年 5月18日（土）						
	10:00 開講式						
	10:20 ルールテスト						
	11:00 実技開始						
	18:30 講義開始						
	20:30 食事会						
●担当試合	令和元年 5月19日（日）						
	10:00 実技開始						
	16:00 閉校式						
	令和元年 5月18日（土） 11:00 ～						
	対戦カード	大阪教育大学		VS	大阪経済法科大学		
	主審	CC	大倉(高)	U1	四谷氏(社)	U2	重松氏(中)
	講師／主任	湯浅 剛 氏					
	講評	クルーとして ○メカについて ・大きな崩れはなかったが、リードが積極的にローテーションしてもいいケースがあった。映像解剖して次に生かすこと。 ・クロックプライマリについて再確認すること。 個人として ○メカについて ・リードローテーションする時、しない時の判断についての再確認 ○強さについて 吹く強さ 吹かない強さ 自分のプライマリでない時、オヴィアスなプレーについて笛を入れず、クルーに任せる強さがこれから求められる					
	自己の感想	メカについてはクルーで大きく崩すことなくできた。クロック管理もマジックタイムを使い、修正するすることができたのは良かった点である。 講師のコメントにもあったが、オヴィアスなプレーについて、プライマリのレフリーにもっと任せることが必要であると感じた。自分のプライマリで起こるケースについてはCCメンタリティをもってコールできているからこそ、クルーのプライマリで起こることについて、笛を入れずに任せてあげることが求められると感じた。					

	令和元年 5月19日 (日) 12:30 ~							
	対戦カード	大阪経済大学B			VS		阪南大学	
	主審	CC	大倉(高)	U1	正水氏(中)	U2	花谷氏(社)	
	講師／主任	湯浅 剛 氏						
	講評	クルーとして ○メカについて ・プライマリの確認。ダブルコールが多かった。ダブルコールが悪いわけではないが、プライマリのシングルを目指す。 個人として ○メカについて ・リードローテーションのタイミングは前日より改善されたが、ローテーションした方がよい時にステイしてしまい、ボールウォッチャーになっている時がある。						
自己の感想	クルーとしてメカをベーシックにすることができていたと思う。 判定についてはポストでの手の使い(オフェンス)について、検証していく必要がある。							

令和元年 第2回 ステップアップ研修会
参加報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第37回 大阪学生バスケットボール選手権大会						
●日程	令和元年5月18日		(土)		～	令和元年5月19日	(日)
●会場	大阪商業大学・関西大学						
●講師	大阪府審判委員会インストラクター部 湯浅 剛 様 黒岡 和哲 様 飯尾 勝紀 様 村田 尚美 様 原 一正 様						
●スケジュール	5月18日 (土)						
	10:00 集合・開講式 10:00 ルールテスト 11:00 実技講習開始 17:30 ホテル移動 18:30 座学研修 20:30 懇親会						
	5月19日 (日)						
	9:30 集合 11:00 実技講習開始 14:30 閉講式						
●担当試合	5月18日 (土) 11:00 ～						
	対戦カード	大阪府立大学		VS		大阪産業大学B	
	主審	CC	細見	U1	正水氏	U2	太田氏
	講師／主任	黒岡氏					
	講評	・ゲームがスムーズに始まるように、ゲーム開始前からの準備、気配りが必要。 ・プレゼンを意識しているが、もっと自然な立ち振る舞いを意識する。 ・ダブルホイスルの際には、もっとプライマリーを意識し、プライマリーの審判がテーブルレポートに行くようにする。 ・ボールウォッチャーになっているので、自分の目の前のプレーをこぼしてしまうことがある。					
	自己の感想	・ゲーム前の準備・コートインスペクション・プレイヤーの身に付けて良い物の確認などについて、普段とは違うことを情報として持っておくことで、未然のトラブル回避に繋がるだけでなく、色んなことにアンテナを張り巡らせることで、ゲーム中の気付きにつながり、自身のレフリング直結するものだと感じた。 ・リード時、特にオフェンスがペイントエリアでアタックする瞬間は、レフリーディフェンスが出来ていない。またその前の段階でボールウォッチャーになっているケースが多いので、修正が必要。					
	5月19日 (日) 14:30 ～						
	対戦カード	大阪経済大学A		VS		摂南大学	
	主審	CC	細見	U1	田中(真)氏	U2	四谷氏
	講師／主任	飯尾氏					
	講評	・今日のゲームのように、クレー及び試合を包み込むような判定を心がけてほしい。その点で言うと、最後のファウルの判定のみ、今日吹いた基準からすると、吹かなくても良かった。 ・相手審判がトラベリング、自分がオフェンスファールで意見が分かれた時、二人で寄ったのは良かった。只、プライマリーは相手審判なので、もっと笛を鳴らすのはもっと遅らせるつもりで。 ・相手プライマリーのオヴィアスなショットファールを送らせてコール。セカンダリーとして良かったコールであった。					
	自己の感想	・ボールウォッチャーやプライマリーの意識については、ゲームレベル・相手審判への信頼度・メンタル等の要因で大きく変わるので、良いパフォーマンスをする時には、各要因がどういう状態なのか、悪い時には、どうよう状況で出るのか、理解し改善を行う。 ・プレゼンについては意識するようにしているが、良いプレゼンを自然な形で無意識でできるように今後も研究していく。					

第 2 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 研 修 会
参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第37回 大阪学生バスケットボール選手権大会						
●日程	令和元年5月18日 (土) ~ 令和元年5月19日 (日)						
●会場	大阪商業大学体育館・関西大学体育館						
●講師	黒岡 和哲 氏 湯浅 剛 氏 飯尾 勝紀 氏 村田 尚美 氏						
●スケジュール	令和元年5月18日 (土)						
	10:00 集合・開講式 10:10 ルールテスト 11:00 実技講習開始 17:30 ホテル移動 18:30 座学研修 20:30 懇親会						
	令和元年5月19日 (日)						
	9:30 集合・実技講習開始 第4試合終了後 閉講式						
●担当試合	令和元年5月18日 (土) 14:00 ~						
	対戦カード	桃山学院大学		VS		大阪府立大学	
	主審	CC	高野 晃平 氏	U1	西田 尚樹	U2	木村 裕也 氏
	講師／主任	湯浅 剛 氏					
	講評	・プライマリーエリアで起こるプレーに対して決断して判定することができた。 ・クルー同士でしっかりアイコンタクトをとり、ローテーションもスムーズに行うことができていた。 ・メカに関して、Lローテーション中にCから速攻時のgoodcallなど、ストロングCとして存在感も良かった。 ・判定したプレーの中でマージナルなものまで取り上げているケースがあった。RSBQまでしっかり確認して判定ができればよかった。					
	自己の感想	前回の研修会の反省を踏まえ、今回は強いCCMを発揮することとテンポセットを意識してゲームに臨みました。プライマリーエリアで起こったプレーに対して積極的に判定することができたことや、決断すべきところで笛が入れられたことがよかったと感じています。しかし、積極的に判定するあまり、マージナルなプレーにまで笛を入れてしまうケースがあり、RSBQまでしっかり確認して判定することが自身の新たな課題となりました。 今回の反省を次のゲームに活かせるよう取り組んでまいります。					

●担当試合	令和元年5月19日 (日) 11:00 ~						
	対戦カード	摂南大学			VS	関西外国語大学	
	主審	CC	石川 淳也 氏	U1	西田 尚樹	U2	森 照代 氏
	講師／主任	湯浅 剛 氏					
	講評	・アイコンタクトしながらクルーでまとまって1ゲーム運営する事ができた。 ・速攻時のトップからのショットに対して、Cサイドから3vs2のヘルプを行いクルーに正しい情報を伝えることができたが、もう少し早くBasicポジションに入っていれば、より説得力があった。 ・Lローテーションが完成すると同時のタイミングで判定しているケースがあったが、Cに判定を任せておけばよかった。 ・取り上げているファウルについて必要かどうか、RSBQはどうかといったところまでこだわりを持って判定する。					
	自己の感想	前日のボスカンでご指導いただいたことを踏まえ、不必要な笛を減らしていくことを意識してゲームに臨みました。しかし映像で振り返ってみて、判定したケースの中でマージナルなものがいくつかあり、RSBQまでしっかり確認したうえで笛を入れることをもっと意識する必要があると感じました。 また、プレゼンテーションに関しても自分では意識しているつもりでも、映像で確認するとまだまだ慌てているように見える場面があり、意識し続けることの難しさを改めて実感しました。自身の課題を1つずつ改善できるようもっと意識を高めていきたいと思います。 2日間にわたりさまざまなアドバイスをいただき、また、座学の講義でも貴重なお話を聞くことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。このような機会を与えてくださった全ての皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。					

2019年度第2回ステップアップ講習会 参加報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第37回 大阪学生バスケットボール選手権大会		
●日程	令和元年5月18日（土）～ 令和元年5月19日（日）		
●会場	大阪商業大学・関西大学		
●講師	・湯浅 剛氏 ・黒岡 和哲氏 ・飯尾 勝紀氏 ・村田 尚美氏		
●スケジュール	令和元年5月18日（土）		
	10:00 集合・開講式 10:10 ルールテスト 11:00 実技講習開始 17:30 ホテル移動 18:30 座学研修 20:30 懇親会		
	令和元年5月19日（日）		
	各自現地集合 9:30 実技講習開始 16:00 閉講式		
●担当試合	令和元年5月18日（土） 11:00 ～		
	対戦カード	大府大 VS 大産大B	
	主審	主審 細見氏	副審 正水・太田氏
	講師／主任	黒岡 和哲氏	
	講評	・ゲーム開始前、レフリー3人の服装を揃えること。 （例）3人黒で統一する、上着を着ないなど ・ゲーム開始直前まで試合球の準備ができていなかった。準備を早くすること。 ・ゲームのレベルにアジャストできるまでに時間がかかり過ぎ、前半に笛数が少ない。 ・プレゼンテーションをもっと意識すること。 ・ダブルコールの時、自分のプライマリーであるのにレポートを譲ってしまうケースがあった。もっと積極的に行くべきである。 ・プロテクトシューターの意識が薄かった。	
	自己の感想	・ゲーム全般的に、ドライブ中の体の接触に対して判定ができていないと感じた。 また自分がそう感じているにも関わらず改善しきることができなかった。 ・アウトオブバウンズの時、相手審判にヘルプを求められる前に、ヘルプをしてしまうケースがあった。 ・相手審判の二人に比べて、レポート時などに声を使うことが少ないと感じた。	

●担当試合	令和元年5月19日（日） 13:00 ～			
	対戦カード	大経大B		VS 阪南大
	主審	主審 大倉氏	副審	正水・花谷氏
	講師／主任	湯浅 剛氏		
	講評	・トレイルが高く、3or2の判定が不安定である。フット・アップを意識すること。 ・センターの時に、ボール中心にプレーを見まっている。 ・センターからトレイルにローテーションするのが早い。ダブルセンターになっても良いことを意識し、落ち着いて動くようにする。 ・TO管理をもっと丁寧にすること。		
	自己の感想	・判定できている時間帯とできていない時間帯にムラがあると感じた。 ・リードで、プライマリーが誰かわからなくなることが多く、判定が遅くなることがあった。 ・ローテーション中にシュートが放たれるケースが多いのでプレーの流れを考えなければならなかった。 ・課題であるクルーチーフメンタリティーを出すことができなかった。 ・プレゼンテーションを意識することはできたが、もっと自然に格好良くできるよう日頃から意識していく必要があると思った。		

2019 年 度 第 2 回 ス テ ッ プ ア ッ プ 講 習 会
参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第37回 大阪学生バスケットボール選手権大会			
●日程	令和元年5月18日 (土)		～	令和元年5月19日 (日)
●会場	大阪商業大学・関西大学			
●講師	大阪府審判委員会インストラクター部 黒岡 和哲 様、湯浅 剛 様、飯尾 勝紀 様、村田 尚美 様、原 一正 様			
●スケジュール	令和元年5月18日 (土)			
	10:00 開講式 10:10 ルールテスト 11:00 実技開始 17:30 ホテル移動 19:00 座学研修(1級IR 黒岡様、湯浅様より) 20:30 夕食懇親会			
	令和元年5月19日 (日)			
	9:30 実技開始 第四試合終了後 閉講式			
●担当試合	令和元年5月18日 (土) 15:30 ～			
	対戦カード	大阪学院大学B		VS 近畿大学B
	主審	主審 北村氏(高体連)	副審	U1河崎 U2木村氏(社会人連盟)
	講師／主任	飯尾 勝紀 様		
	講評	・ベンチからのアピールに崩れることなく、一試合通して判定基準を示すことができていた。 ・プライマリが誰であるかをもう一度理解する必要がある。特に、ダブルコールになった場合は、必ずアイコンタクトを取り、プライマリレフリーがレポートに行くようにする。 ・プレゼンテーションでは、力強く表現できている場面もあるが、一方で雑になってしまう場面もあるので、常に丁寧さを心がけてプレゼンテーションをしてほしい。 ・トレイルの位置が高く、ストレートラインでショットの判定をしていることが多い。またはショット直後に移動している場面が多く、止まりながらの判定ができていない。ディフェンスの状況やプレーの流れを感じ取り、早めに止まって判定のできる位置に移動する必要がある。		
	自己の感想	・大きなベンチアピールがあった中で、気持ちを持ち直して最後まで一貫した判定ができた。しかしアピールがあった判定に関して、トレイルの位置が高かったことが反省である。ベンチが納得できる位置取りで判定するよう心掛ける。 ・全体的にトレイルの位置が高く、ストレートラインができる場面が多かった。立ったままで判定するのではなく、よりよい位置取りを見つけて判定したい。 ・プレゼンテーションに関しては、テーブルプレゼンが課題である。3点セットを一呼吸置きながら力強くしていく必要がある。常にあらゆるプレゼンテーションを丁寧にしていくことを心がけたい。		
	令和元年5月19日 (日) 9:30 ～			
	対戦カード	四天王寺大学		VS 大阪大谷大学
	主審	主審 宮城氏(社会人連盟)	副審	U1河崎 U2木村氏(ミニ連)
	講師／主任	黒岡 和哲 様		
	講評	・大会規定を事前に確認しておくこと(ベンチに座れるスタッフの人数やプレイヤーの数など)。 ・3vs2などのヘルプの意識がクルー全体にあったのは良かった。 ・リードの判定でクロスコールがいくつか見られた。プライマリの理解を深める必要がある。 ・クルー全体でビッグインパクトを取り逃さない。自分のプライマリーではない場合も、判定できる準備をしておく。 ・ゲーム全体で大きな判定ミスはないが、処置ミスがいくつかあった。起きたことをルールどおりに正しく適用することを心がけて欲しい。 ・正しいプレゼンテーションを心がけること。いい判定にはいいプレゼンテーションが必要である。		
	自己の感想	・リードの判定でクロスコールがいくつかあった。原因としては、ボールウォッチャーになっていることと、プライマリの理解ができていないことが挙げられる。「誰が一番手で自分は今何番手なのか」をきちんと理解したい。 ・ダブルコールの際にアイコンタクトができず、プライマリレフリーでないのにテーブルレポートをおこなったケースがあった。		

		・速攻のケースで相手のプライマリで起こったビッグインパクトをヘルプすることができなかった。とり逃すべきではないインパクトだったので、クルーワークとして課題が残った。 ・E O Gに私が判定したU F が果たして必要であったのかは検証する必要がある。emotional callになっていないかどうか、U F を宣されたプレイヤーのその後の態度はどうだったかなど、U F の示し方も工夫が必要である。
--	--	---